

<p>がんに関する情報を掲載したパンフレットの種類を増加させるとともに、当該パンフレットを配布する医療機関等の数を増加させること。加えて、当該パンフレットや、がんの種類による特性等も踏まえた患者必携等に含まれる情報をすべてのがん患者及びその家族が入手できるようにすること</p>	<p>①がん対策情報センターのパンフレットの種類 4種類 【平成19年4月1日】</p> <p>②（HPに掲載したなどの定性的な説明とす る） 平成19年4月2日に4種類のパンフレットをHPに掲載。</p>	<p>①がん対策情報センターのパンフレットの種類 46種類 【平成22年3月】</p> <p>②平成22年3月4日時点で46種類のパンフレットをHPに掲載。</p>	<p>○患者必携修正版の完成・公表</p>
<p>拠点病院における診療実績、専門的ながん診療を行う医師及び臨床試験の実施状況に関する情報等を更に充実させること。</p>	<p>○がん対策情報センターにおいて情報提供している拠点病院の診療実績等の項目 44項目 【平成19年4月】</p>	<p>○がん対策情報センターにおいて情報提供している拠点病院の診療実績等の項目 130項目 【平成20年4月】</p>	<p>○予後調査実施体制の構築</p>
<p>院内がん登録を実施している医療機関を増加させるとともに、すべての拠点病院における院内がん登録の実施状況（診断から5年以内の登録症例の予後の判明状況など）を把握し、その状況を改善すること</p>	<p>①院内がん登録を実施している医療機関数 拠点病院242施設 【平成19年8月】 ※標準的な院内がん登録を実施している拠点病院数</p> <p>②外部調査を含めた予後調査の非実施率 74.1% 【平成19年8月】</p>	<p>①院内がん登録を実施している医療機関数 拠点病院366施設 【平成21年12月】 ※標準的な院内がん登録を実施している拠点病院数</p> <p>②外部調査を含めた予後調査の非実施率 74.1% 【平成21年12月】</p>	<p>○研修内容の評価</p>
<p>すべての拠点病院において、がん登録の実務を担う者が必要な研修を受講すること（5年以内）</p>	<p>○がん登録の実務を担う者が必要な研修を受講したがん登録実務者を配置している拠点病院の割合 55.4%(148/267) 【平成20年3月】</p>	<p>○がん登録の実務を担う者が必要な研修を受講したがん登録実務者を配置している拠点病院の割合 100%(377/377) 【平成22年4月】</p>	<p>○がん登録の認知度向上</p>
<p>がん登録に対する国民の認知度調査を行うとともに、がん登録の在り方について更なる検討を行い、その課題及び対応策を取りまとめること</p>	<p>（参考値）がん登録の認知度 13.4%（「よく知っている」、「言葉だけでは知っている」と答えた者の割合） （平成19年9月世論調査）</p>	<p>（参考値）がん登録の認知度 13.6%（「よく知っている」、「言葉だけでは知っている」と答えた者の割合） （平成21年9月世論調査）</p>	

	と	<p>発がんリスクの低減を図るため、たばこ対策について、すべての国民が喫煙の及ぼす健康影響について十分に認識すること、適切な受動喫煙防止対策を実施すること、未成年者の喫煙率を0%とすること(3年内)、さらに、禁煙支援プログラムとのさらなる普及を図りつつ、喫煙をやめたい人に対する禁煙支援を行っていくこと</p>	<p>○喫煙が及ぼす健康影響についての十分な知識の普及(知っている人の割合) ・肺がん 87.5% (平成15年国民健康・栄養調査)</p> <p>○未成年者の喫煙率(喫煙している人の割合) ・男性(中学1年) 3.2% ・男性(高校3年) 21.7% ・女性(中学1年) 2.4% ・女性(高校3年) 9.7% (平成16年度未成年者の喫煙および飲酒行動に関する全国調査(平成16年度厚生労働科学研究))</p>	<p>○喫煙が及ぼす健康影響についての十分な知識の普及(知っている人の割合) ・肺がん 87.5% (平成20年国民健康・栄養調査)</p> <p>○未成年者の喫煙率(喫煙している人の割合) ・男性(中学1年) 1.5% ・男性(高校3年) 12.8% ・女性(中学1年) 1.1% ・女性(高校3年) 5.3% (平成20年度未成年者の喫煙・飲酒状況に関する全国実態調査結果(平成20年度厚生労働科学研究))</p>	<p>○たばこ対策の強力な推進 ○喫煙の健康影響に関する国民の認識 ○未成年者の禁煙対策の推進 ○未成年に接する者に対する喫煙調査の実施 ○受動喫煙防止の実態把握 ○禁煙や分煙対策をしている事業所、公共の施設の実施状況について情報収集</p>
がんの予防	と	<p>健康日本2.1に掲げられている「野菜の摂取量の増加」、「1日の食事において、果物類を摂取している者の増加」及び「脂肪エネルギー比率の減少」</p>	<p>○野菜の摂取量の増加(1日あたりの平均摂取量)成人 303g (平成18年国民健康・栄養調査)</p> <p>○1日の食事において、果物類を摂取している者の増加(摂取している人の割合)成人 63.5% (平成16年国民健康・栄養調査)</p> <p>○脂肪エネルギー比率の減少(1日あたりの平均摂取比率) ・20~40歳代 26.7% (平成16年国民健康・栄養調査)</p>	<p>○野菜の摂取量の増加(1日あたりの平均摂取量)成人 295g (平成20年国民健康・栄養調査)</p> <p>○1日の食事において、果物類を摂取している者の増加(摂取している人の割合)成人 60.0% (平成18年国民健康・栄養調査)</p> <p>○脂肪エネルギー比率の減少(1日あたりの平均摂取比率) ・20~40歳代 27.1% (平成18年国民健康・栄養調査)</p>	<p>○食育との共同推進</p>
がんの早期発見	と	<p>がん検診の受診率について、欧米諸国に比べて低いことも踏まえ、効果</p>	<p>○がん検診の受診率 【平成22年6月】 (調査結果は平成23年度中公表)</p>	<p>○がん検診の受診率 【平成22年6月】 (調査結果は平成23年度中公表)</p>	<p>○市町村でのがん検診受診率とともに、職域の受診率の把握と推進 ○各企業に、がん検診の正しい情報の提供</p>

<p>的・効率的な受診間隔や重点的に受診勧奨すべき対象者を考慮しつつ、50%以上（乳がん検診、大腸がん検診等）とすること（5年以内）</p>	<p>【平成16年】 ＜男性＞ 胃がん：27.6% 肺がん：16.7% 大腸がん：22.2% ＜女性＞ 胃がん：22.4% 肺がん：13.5% 子宮がん：20.8% 乳がん：19.8% 大腸がん：18.5% (国民生活基礎調査)</p>	<p>【平成19年】 ＜男性＞ 胃がん：32.5% 肺がん：25.7% 大腸がん：27.5% ＜女性＞ 胃がん：25.3% 肺がん：21.1% 子宮がん：21.3% 乳がん：20.3% 大腸がん：22.7% (国民生活基礎調査)</p>	<p>と協力要請の実施 ○小中高校生に対するがん検診の普及啓発 ○女性特有のがん検診推進事業による個人への受診勧奨とその効果に対する検討 ○がん検診受診者名簿の推進と活用 ○自治体や医療機関に対するがん検診受診率向上に係る研修の実施 ○がん検診ハンドブックの普及啓発</p>
<p>すべての市町村において、精度管理・事業評価が実施されるときも、科学的根拠に基づいてがん検診が実施されること</p>	<p>①精度管理・事業評価を適切に実施している市町村の割合 (厚生労働科学研究の研習班調べ) 事業評価のためのチェックリストの大項目を8割以上実施している自治体 【平成19年度】 胃がん：57.9% 肺がん：50.8% 子宮がん：54.8% 乳がん：55.7% 大腸がん：53.6%</p>	<p>②国の指針に基づいてがん検診を実施している市町村の割合 胃がん：99.7% 子宮がん：99.6% 肺がん：90.1% 乳がん：83.5% 大腸がん：98.9% 【平成18年1月1日】</p>	<p>○科学的根拠に基づいてがん検診の検討と推進 ○がん検診の精度管理や費用対効果の検討 ○自治体や医療機関に対するがん検診精度管理に係る研修の実施</p>
<p>がん研究</p>	<p>がんによる死亡者数の減少、がん患者及びその家族の苦痛の軽減並びに療養生活の質の維持</p>	<p>②国の指針に基づいてがん検診を実施している市町村の割合 胃がん：97.8% 子宮がん：93.9% 肺がん：92.3% 乳がん：87.9% 大腸がん：97.8% 【平成20年1月1日】</p>	<p>○各分野（基礎医学、治療法、患者支援、情報提供等）の研究の進捗や、係る費用の推移、主要雑誌への掲載状況等、研究内容や進捗に対する理解できる指標の検討</p>
<p>がん研究</p>	<p>○研究関連予算額（参考値） 63億円（厚労省） 152億円（文科省）</p>	<p>○研究関連予算額（参考値） 83億円（厚労省） 151億円（文科省）</p>	<p>○研究関連予算額（参考値） 63億円（厚労省） 152億円（文科省）</p>

	<p>向上を実現するための がん対策に資する研究 をより一層推進してい くこと</p>	<p>98億円(経産省) 【平成18年度】</p>	<p>71億円(経産省) 【平成22年度】</p>	<p>○基礎研究の成果を seeds として、医薬品・ 医療機器の開発を通じ、基礎と臨床の間の「死 の谷」を乗り越え、がん医療の innovation を 起こす研究・開発の強化</p>
--	---	-------------------------------	-------------------------------	---